

## 《薬局サーベイランスコメント》

### 『第 45 週（11 月 7 日～13 日）よりインフルエンザの全国的な流行が開始、12 月中には本格的な流行となる可能性が高い』

2016 年 11 月 15 日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬局サーベイランス (<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>) によると、今シーズン（2016/2017 年シーズン）の 2016 年第 45 週（11 月 7 日～13 日）のインフルエンザの推定患者数は 31,087 であり、前週（第 44 週：10 月 31 日～11 月 6 日）の推定患者数（21,437）よりも急増し、薬局サーベイランスにおける全国的な流行開始の基準値（30,000）を上回りました。昨シーズン（2015/2016 年シーズン）で推定患者数が 30,000 を超えたのは 2015 年第 52 週であり、それよりも流行の立ち上がりは 8 週間早くなっています。また、新型インフルエンザの流行時期を除けば、2009 年の薬局サーベイランス開始以来、これほど早期にインフルエンザの流行が始まったのは初めてとなります（図 1）。休日明けの第 46 週の月曜日（11 月 14 日）の推定患者数は 9,792 と第 45 週の月曜日の値（5,313）を大幅に上回っており、今後更にインフルエンザの患者数は大きく増加していくものと推定されます。例年よりも 1 か月以上早く、12 月中にはインフルエンザは本格的な流行となる可能性が高いと思われます。

各都道府県別の第 45 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、沖縄県、福井県、栃木県、北海道、新潟県、茨城県、岩手県、東京都の順となっています。中部から東側に流行の大きな地域が目立ちます。

2016 年第 36 週から第 45 週までの累積の推定患者数は 112,296 であり、年齢群別では 40～49 歳（13.9%）、30～39 歳（12.5%）、10～14 歳（12.4%）、20～29 歳（11.2%）、5～9 歳（11.1%）の順となっており（図 2）、前週に引き続いて 40 代、30 代が多数を占めていますが、小児の割合が高くなりつつあります。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（129 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 82.2%と大半を占めており、次いで A/H1pdm 14.7%、B 型 3.1%の順となっています（図 3）。

今シーズンのインフルエンザ患者発生の立ち上がりは新型インフルエンザを除けば過去に例を見ないほど早く、11 月初旬に流行開始となってしまいました。今後のイン

フルエンザの患者発生の動向については注意してください。

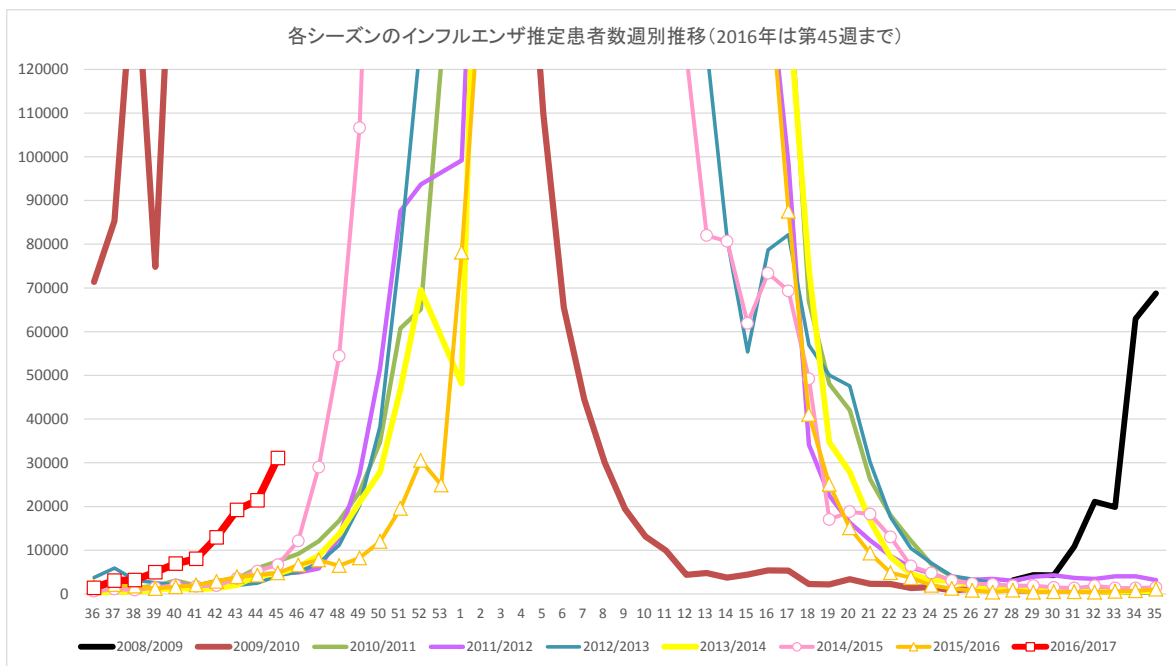


図 1. 過去 6 シーズンと今シーズン (2016/2017 シーズン) のインフルエンザ推定患者数週別推移

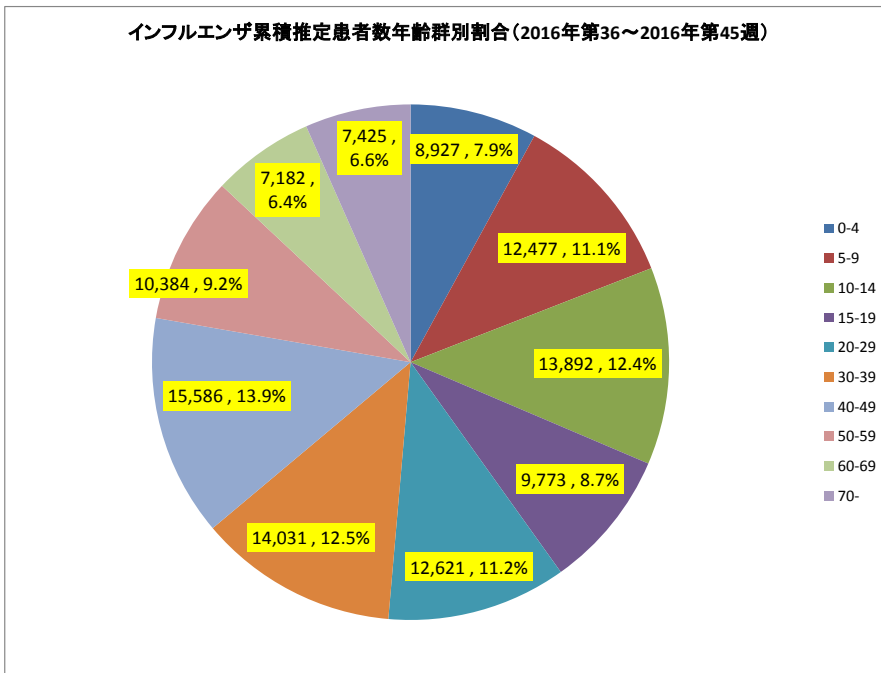


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2016 年第 36～2016 年第 45 週、累積推定患者数= 112,296)

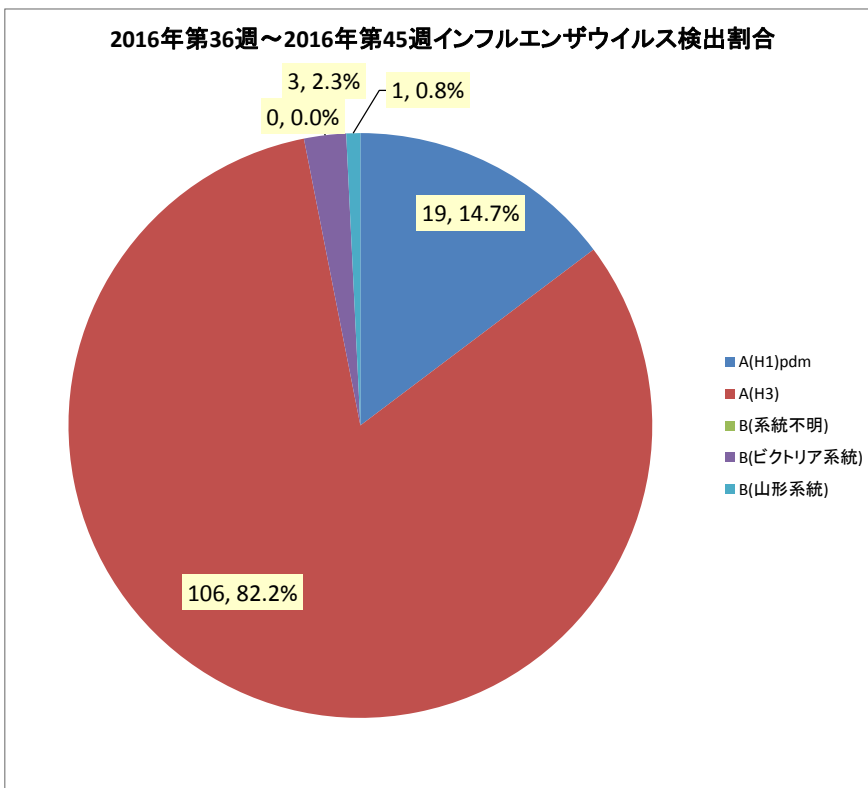


図 3. 2016 年第 36～2016 年第 45 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=129)